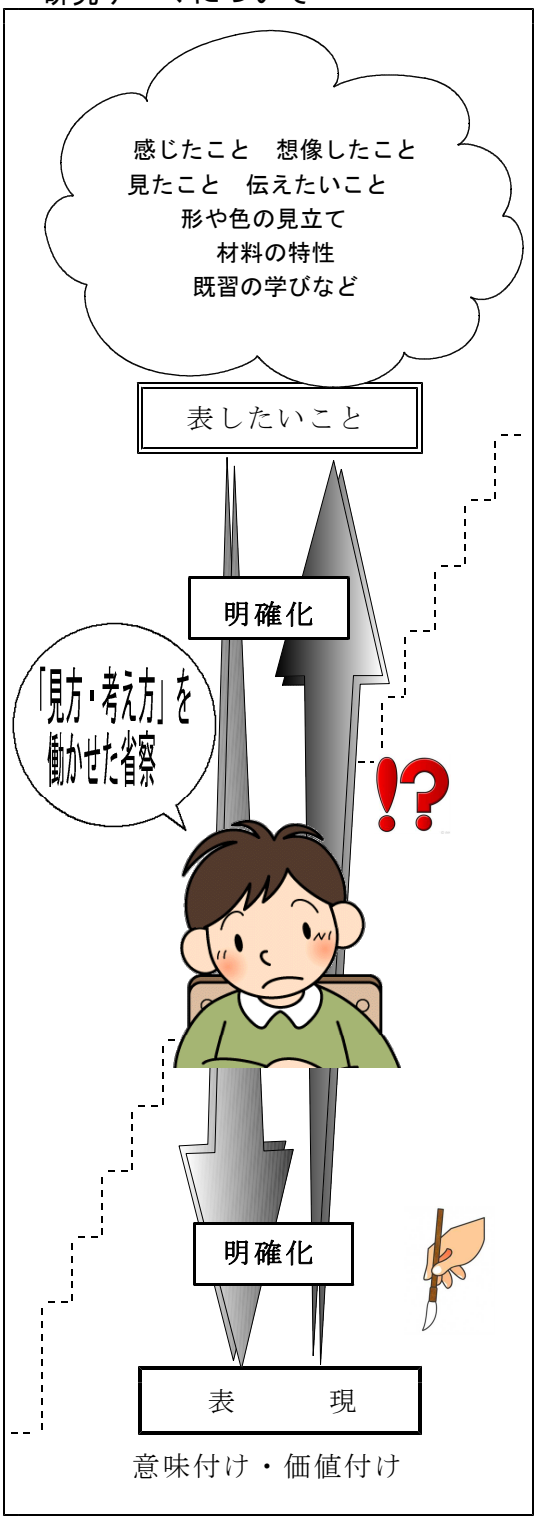
2019年度　図画工作科実践・研究計画

部　員	○進藤亨，佐々木恵

研究テーマ
表したいことをはっきりとさせ，
表したいイメージに近づくように表現を工夫する子どもを育む学び

1　研究テーマについて



図画工作科の特質は，自分が表したいイメージを形や色などで表したり，形や色などからイメージをもったりすることである。

こうした特質を踏まえ，本校の図工部では図画工作科での「自律した学習者」の姿を自分が表したいことをはっきりとさせ，表したいイメージに近づくような表現を求めて試行錯誤していく姿であると考える。

自分の学びを自覚することで，表したいことを造形的な「見方・考え方」を働かせて，どのように表せばよいのかを考え，表したいイメージに近づくような表現方法を選択したりつくり出したりする学びが更に積み重なっていくと考える。

また，図画工作科における「学びをつなぐ」とは，前に学習した考え方を用いて表したいことを思い付いたり，習得した表し方を表したいことに合わせて意図的に取り入れたりすることであると考える。

昨年度の実践では，表したいことを思い付く場面とイメージや形，色などに着目した「見方・考え方」を働かせた省察を研究の重点として取り組んだ。その結果，自分の表したいことをもって作品づくりに取り組む子どもやイメージと形や色などを関連付けて表現しようとする子どもが多く見られるようになった。表したいことをはっきりとさせていくことで主体的に省察をしながら表現しようとする意欲の高まりが見られた。また，自分の内面と向き合ったり，作品づくりの見通しをもって取り組む力も向上してきている。

そこで，本年度もこれまでの学びを想起したり，鑑賞活動を通したりして表したいことをはっきりとさせることを重視する。そして，表したいことと表現を往還させながら表したいことをよりはっきりとさせていく。表したいことをこれまでに学んだ表現方法を選択してどのように表現するか考える。効果的に表現できているかどうかを造形的な「見方・考え方」を働かせて省察しながら作品づくりに取り組む。（左図）このような学びを状況に応じて自分と対話しながら進めたり，仲間や教師と対話しながら進めたりしていく子どもを育てたい。これらのことから，図画工作科における「学びをつなぎ，資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

・これまでの生活経験や学んだことを想起し，自分の表したいことをもったり，表し方を考えたりする姿
・表したいイメージに近づくように，これまで学んだ表し方を生かしたり，試す・省察を繰り返したりしながら，納得できる表し方を見付ける姿。
・作品づくりを通して見方や感じ方を広げ深め，自分の学びを自覚したり，今後に生かそうとしたりする姿。

2　研究の重点

(1) 試行錯誤を通して効果的な表現を選択するための手立ての工夫

図画工作科の学びにおいて，省察は次の三つの場面でなされると考える。一つ目は，表したいことをどのようにして表すかを構想する場面，二つ目は，作品づくりの際に，表したいことが効果的に表現できているかどうかを確かめる場面，三つ目は，作品づくりを通して自分の学びや今後に生かせることをふり返る場面である。本年度は，作品づくりの際に，表したいことが効果的に表現できているかどうかを確かめる省察の場面を重点としたい。

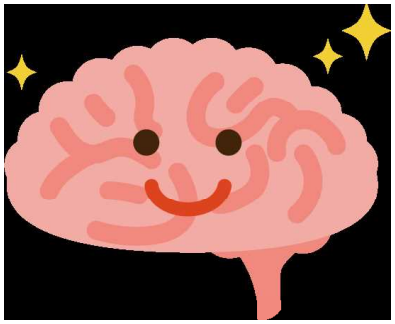
子どもが試行錯誤しながら作品づくりに取り組んでいる姿を，表したいイメージに近づくように試し省察している姿であると考える。強い課題意識をもち，自分の表したいことはどのようにしたら効果的に表すことができるのかを問う姿勢をもつことで主体的な学びが生まれる。イメージ，形や色，線，構成など造形要素を「見方・考え方」を働かせて省察するためには，自分の表現が表したいイメージに適しているかどうかを思考判断するための経験や知識が必要である。そこで，問いのもたせ方，鑑賞を通して「見方・考え方」を見付けたり深めたりする場の在り方，表現の違いに気付くためのタブレットの活用，気付きを蓄積していくふり返りの在り方などを探っていきたい。

(2) 表現方法を選択したり，生み出したりすることができる題材構成の工夫

表したいことを効果的に表現するためには，様々な表現方法から自分の表したいイメージに適したものを選択したり生み出したりすることが必要である。低学年でクレヨンと水彩絵の具を組み合わせた表現方法で絵を描く活動を行うが，クレヨンで描いた線を目立たせる表現は，中学年でも高学年でも活用できるものである。また，２年生の「キラキラシャボンで」では，シャボンの泡を用いて絵を描く活動を行う。シャボンの泡を用いた表現はこの題材でしか用いないことがほとんどであるが，シャボンの泡を用いた表現も中学年でも高学年でも活用できるものである。

そこで，既習の表現方法を再度確かめたり，新たな表現方法を試したり，材料や用具の特性をつかんだりする活動を題材構成に位置付けていきたい。また，鑑賞によって様々な表現方法を知ったり再確認したりすることができる題材構成，造形遊びでの学びと絵，立体，工作の学びが関連し合う題材構成，「見方・考え方」を絞った短時間題材とじっくりと作品づくりに取り組む題材の組み合わせ等，学びのつながりを意識した題材構成の工夫を探っていきたい。

3　研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
１学期	・附属中学校公開研究協議会（5/31） ・附属小学校公開研究協議会（6/7） 提案授業　進藤：６Ｃ	・実践・研究計画の検討 ・授業を通して重点事項の検証 ・授業づくり，授業力向上
２学期	・研究パンフレット執筆 ・校内授業研究会　佐々木：２Ｃ	・実践・研究のまとめ ・授業づくり，授業力向上
３学期	・部内研究会	・授業づくり，授業力向上 ・研究の方向性の確認 ・実践・研究計画の検討

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正